

ニッポンノチカラ
デザインノチカラ
デザインノチカラ

DesignのEssence

ソメスサドル株式会社社長 染谷 昇氏に聞く

The44th GRADUATION SHOW 2012
北海道芸術デザイン専門学校卒展

Hokkaido Interior Planner's Association 20th
北海道インテリアプランナーズ協会 20周年に寄せて

HIPA MEMBER
会員紹介

SUNTORY MIDORIE COMPETITION
サントリー ミドリエ コンペ報告

2011.HIPA WORKS
2011年活動に想う・協会の活動



北海道発で広く社会に認知され、活躍されている企業の代表として、ノメスサドル(株)、染谷社長へのインタビューを企画いたしました。

地域雇用の為に

かつては、開拓者が作った農耕馬のための馬具職人が北海道内に点在していました。時代の移り変わりとともに、その馬具職人たちが職を失う危機の時代を迎えようとしていました。一方、

歌志内は炭鉱で栄えた町でしたが、それが昭和30年代になると、あっという間に崩れ去ってしまっただのです。歌志内は、馬具には縁もゆかりもなかった地域でしたが、馬具職人の技術者を歌志内に集め、彼らが地元の炭鉱離職者に技術を教え、馬具を作って、海外に輸出をしようと、当時として

は、壮大な計画が持ち上がりました。

それが、歌志内市も株主となって、1964年に誕生したオリエントレザー(株)という会社だったのです。

炭鉱離職者の再雇用が大前提の公共性が高い企業でした。道内各地から集まった熟練者たちを中心に、世界のマーケットに通用するように乗馬用の鞍や馬具の製作に打ち込んだ製品は、やがて欧米等で高い評価を受けるようになりました。円



が360円/ドルの時代、理想的なスタートが切れたのです。

転換期

ところが、10年くらい経過して、オイルショックによる円の高騰で、一気に対ドルが200円台前半になってしまったのです。欧米での競争力が一気に低下してしまいました。馬具の輸出では収益が上がりなくなり、大きな転換期を迎えることになりました。そこで、公共性もある会社を存続するために、商社からの依頼を受けて、私の父(故人)が後を継ぐことになりました。父は、オリエントレザー(株)を誘致する中心的な関わりをしていたのですが、馬具とは何のゆかりもありませんでした。その父が、会社を引き受けることになったのです。



歌志内から移転したきっかけは

歌志内では、空知炭鉱は残っていましたが、いずれ合理化で閉山になることは判っていました。なんとか近隣の地域で、このような工場と販売をする施設／ファクトリーを造りたいと思っていました。それまでは、馬具以外では、主に下請けをやっていたのです。歌志内の旧工場に留まっていたのでは、将来は無いと思っていました。なんとか閉山となる前に、近隣で始められないものかと思ったのです。

三セクばやりの時代でしたから、近隣の市町を含めて、誘致話がありました。しかし、財力が無いなかで、どうしようかとの迷いもありましたが、自分たちで杭を打つべきだと思いました。

そこから始めることで、元の行政を含めた人々と関わる事ができると思ったのです。そして、この砂川の土地が情報として上がってきました。社員の身内の土地だったので。田圃だったので、農地の（転用）許可が必要でした。そのうち許可が出るといわれたのですが、なかなか認可ができませんでした。時間は掛かりましたが、なんとか認可を受けることができ、何もないところから始めたのが、この砂川ファクトリーだったのです。18年前でしたね。

砂川ファクトリーにCSJ

当初は、現在の半分の6000坪だったのですが、自分たちのイメージを先に固めようと思いました。やっぱり「平屋」が良いなとか、「煉瓦」、「木」の組合せ

が良いなと思いました。常に「馬」が背景にあるのです。建物のレイアウトはこの字型をしています。実は「厩舎」のスタイルなのです。北欧の建築文化に興味があり、色的には、北欧に近いイメージを考えていました。図書館に行つて文献を調べたりもしていました。

そうして、札幌在住の友人の縁で倉本龍彦さんを紹介して頂きました。倉本さんからは、沢山のパー스가出てきましたが、当初はな





かなか社内のイメージとは合いませんでした。そこからキャッチボールが始まり、倉本さんのご理解を頂き、私たちも図面を描いたりしました。そして設計図ができあがったのです。1996年の、第9回の北海道赤レンガ建築奨励賞を受賞しています。

五感を感じられる場所

ここは、緩やかな時の流れを感じられる土地です。五感を感じながら、クリエイティブな仕事をする人には大事なことです。そういった雰囲気があるにはあります。静寂な空気が流れているのです。ほぼイメージ通りの建物を与えて貰ったと思っています。ショールームは、専門の業者において、建設業者に頼みました。無手勝流と言えるかも

知れません。無我夢中でした。

何はともあれ、ここにお客さまに来て頂いて、作った商品をこの場で販売するという流れを取りたかったのです。道内に限らず、道外からもたくさんのお客さまに来ていただいています。まだまだ道半ばではありませんが、ものづくりの企業として、少しは北海道に貢献しているのかなと思っています。二次産業は、北海道では歴史的に不毛の地なのです。ミシン一つ北海道では修理ができません。非常なハンディとなっていますが、私たちにとっては、チャレンジでもあるのです。

北海道におけるブランド力とは何でしょうっか？

受け止める側はお客様です。口コミで伝わるのが大事なのです。ブランド力

はそこにあると思います。もとの社名はオリエントレザーという会社でした。私たちが、東京にいたところにバッグらしきものを作り始めていました。ところが、東京で売ろうとしても門前払いばかりで、多くの挫折感を味わいました。一所懸命作っていましたが、壁は厚かったのです。そこで、名前を変えようと考えました。名前がブランドともいえるだろうと。横文字で3文字が良いと思いました。商標権を取ろうとした幾つかの候補の中には、自動車メーカー等に取得されているものもありました。

ソメはフランス語でサミットの意味です。隠語も大丈夫とのことで、「ソメス」という語は悪くないぞということになりました。造語ですが、「ソメスサドル／最高の鞍」という言葉も考えました。それで、ソメスと



日本で唯一の馬具メーカーであり宮内庁御用達です。



ソメスサドルの二つの商標権を登録することができたのです。そして、いっそのこと会社の名前も変えようということになり、会社名もソメスサドルに変えたのです。27年前のことです。作っている証として、ブランド名があります。作っている責任としても名前が大事ですね。北海道の人でも持ったことは無いが知っているというブランドになりました。

企業にとって デザインの意味とは？

もの凄く深い意味がありますね。「命」といっても良いかもしれません。自前でデザインをやってきています。当社は、現在も馬具を作り続けているのですが、効率を考えると馬具には問題があります。たくさんの馬具メーカーからバッグメ

ーカーに転身していますが、エルメスは、今も馬具作りを続けています。エルメスが馬具づくりを続けているのは、多分、社員に対して、「うちは馬具メーカーであり、ものづくりを止めない」という意思を、強烈にアピールをしているのだと思います。原点を忘れないために。それはなぜかということ、馬具は安全性とか堅牢性が重要な「道具」だと思っからです。もちろん、いろんなアクセサリが馬具から来ています。馬具からのエッセンスがたくさん取り入れられています。ところが、その時代を超えて、脈々と



日本中央競馬会にもファンは多い

LENOVOの特注PC

出来上がったPCに革を貼っているのではない。革を貼る為に、インジェクション（プラスチックの成形）まで変えている。

0.1mm単位のリクエストをクリアした海外のブルジョア層をターゲットにした特注品。

1台 70万円





作り続けている技術が、まったく変わっていないのです。効率やポリウムを優先しだとデザインを忘れてしまいます。デザインは永遠のテーマだと思います。そして、デザインだけでなく、革という素材も重要なのです。

素材・革について

国内の革といわれているものの、ほとんどの原皮は北米です。塩漬けの革は、革をなめす業界に対する保護政策のために無税となっています。それをなめして、国産の革として売っています。90%が海外の原皮です。しかし、国内産の色々な革を試しましたが、ふさわしい革が得られませんでした。特に馬具の世界では、海外製品と勝負しなければならぬのですが、(国内産の革だけでは)素材で負けてし

まいます。

牛は3〜4年で成牛になります。しかし、アメリカの牛は2年未満で成牛になります。当然、ホルモンなどの添加をしています。まったく運動していません。まブローと同じですね。面積が大きく繊維の密度が粗い



フランス製高級革

牛が生まれるのです。

それで、ヨーロッパに行きました。イギリスでは、1000年前からタンニンでなめした革を作っていました。祖先は、ローマ人に革作りを教わったとのことでした。それを末だにやっているのです。ところが、国産の4〜5倍もの値段がするのです。ヨーロッパには、商品をバックアップする、同じレベルの素材メーカーがあつたのです。それを踏まえたものづくりを我々もしています。それら含めて、我々はデザインだと思つています。

デザインを担当している社員にも、一定期間ものづくりの作業研修をさせていただきます。ショップのスタッフも、全員に研修をさせてものづくりを体感させています。それが何かを生み出す、目に見えない価値観を共有する大前提なのです。



Signature By 高橋 はるみ

フランス製高級革で作られ、洞爺湖サミットで9カ国のファーストレディーにプレゼントされたバッグ（写真 左）各国首相には右のバッグがプレゼントされた。
デザインもすべてソメスサドル自社でのデザイン。
中を開けると「高橋はるみ」のサインとアイヌ模様が彩られている。

日本は世界の中で、
本当にものづくりを続けられるのか？

この業界の、一般の平均年齢は65歳といわれています。製品は分業化され、それらを集約してブランドを作り上げています。ソメスサドルは自社で一貫生産をしています。一部外注生産もありますが、近隣の50軒ほどの家庭内職も貴重な戦力です。ソメスサドルの工場の平均年齢は38歳です。ほとんどが正社員で、パートナーさんは、5〜6名です。そういう環境を作ることが、一人前の技術者になってもらう最低条件であり、技術を継承していくことだと考えています。

入社3年間は、適正なポジションを見極めるための研修期間と考えています。判断の担当は決めています。完成されるまでは一人

で作るという育て方をしています。ベンツジャパンがいらしたとき、ベンツとイゾムは一緒と言われました。最終的に価値観を判断するのはユーザーですが、そこに最善をつくして製品化しています。ひとつの製品化に3ヶ月かかりますね。

瞬時に感じてもらう
事にかける

友人を道内を案内したときに、色々な土産物があったのですが、その友人はその場で、何万円もするソメスさんのバッグを気に入って購入したことがありました。

革は自然のものです。好きとか嫌いとか、あるいは興味のあるなしはありませんが、不思議なもので、人間には、手の感触や視覚でものを見分ける能力が備わっているそうです。瞬時に感



じて頂くことに、我々はかけています。手間暇かけてそこまでしなくてもという意見もあります。当然、価格に転嫁しますから。作って良いかどうかの最終判断は、すべて社長である私がしています。私は、その購入した方の感性や価値観にかけたいですね。



企業の姿勢がこんなところにも



IP NEWSの メッセージ

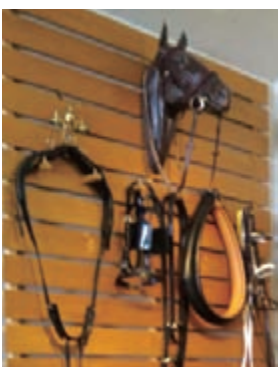
共通するのはものづくりの世界です。色々な事を、見たり聞いたり自分自身の感性を信じて、磨きをかけて高める必要があります。デザインだけではなく、環境も含めてそれを大事にして貰いたいと思います。私は素人ですが、描く姿はまったく揺るがずに来ました。作ったものに対しても、デザインに対しても厳しく言います。



車の国産メーカーの500台限定のシート開発のお手伝いもしました。鞍づくりのイメージで形にして欲しいといわれたのです。鞍の骨は木製品です。木工技術が生きています。木と革とのコンビネーションで、そこにあるだけで存在感を感じられるものを作りたいと思っています。

この応接にある椅子は、革貼りですね。でも、製品としては市場に出ていますね。

応接にある家具のベースはカンディハウスです。数年前にカンディハウスの社員研修にいられた時に講演をさせて貰いました。鞍は馬の椅子ですが、中はウツ



ドで木工技術が入っている話をさせて貰いました。我々は、馬の椅子を作っていると説明したときには、驚かれました。そういう意味では、近い業界といえます。イタリアのアルフレックスとも提携しています。

実は、工場に張りついたデザイナーが欲しいと思っています。これから募集を掛けようと思っています。そういう人材が求められています。必ずしも革製品に精通したデザイナーでなくても良いのです。なんでもできる工場は、余り日本には無いんですね。女性は袋物、男性は鞆を作ることが多いのです。転換しようとする会社もあるようですが、人間の手はそんなに簡単に変わりません。ベルトをつくる会社はベルトのみが多いのです。我々は、色々なものを作ってきました。馬車まで作ったのですから。



革製品から、家具へ 建物へ

個人住宅を考えても、どんな革製品が生かせるかというテーマがあります。バッグは道具でもあります。他には自分で携帯するものやインテリア製品までのイメージがあります。例えば、トレーは、形状もデザインも色々ありますが、使い方も色々考えられます。小物入れは、場合によっては食べ物を入れる事も可能かもしれない。それっておしゃれだと思いませんか？ 他は、ケースなどの箱物があります。それぐらいのものは、依頼があれば造作なく作ることが出来ます。パイロットとタイプアップした万年筆ケースは手縫いをしています。家具製品を自前で作ることはありませんが、タイプアップの可能性はあります。

住空間の中で、革製品をどう生かすかがこれからのテーマでしょうね。まだまだ可能性はあります。

その後、京都迎賓館にレターボックスとレザーマット、トレー、靴べらなどを納品したお話や、革で覆ったレノボのノートパソコンも見させて頂きました。続いて、染谷社長自らの案内で、工場見学とショールームを見学させて頂きました。工場は、よく整頓されていて、みなさんが物静かに整然と製作されていました。馬具の装飾は、特に美しいですね。リフォームのコーナーもあり、使いこなされたバッグが丁寧に再生されていました。ショールームでは、サミットで世界の首脳に渡されたバッグが陳列されていました。内部にはアイヌ紋様が漆で刷り込まれたとのこと。階段の手摺りは、革で表装されて

います。そして、馬車もありました。どこでも撮影OKの精神が素晴らしいですね。ショールームの窓半分を覆うほどの雪に覆われたファクトリーですが、北海道を代表するデザインが静かな環境の中で、熱気を放っていました。

- ◆ インタビューアー
内沢 礼子 (情報委員会副委員長)
- ◆ サポーター
田路 仁 (情報委員長)
倉井 洋子 (情報委員会)
田中 千佳 (情報委員会)
- ◆ 記録・撮影
松田 秀章 (情報委員会担当副会長)

本校のデザイン教育について

北海道芸術デザイン専門学校

校長 後藤 精一

本校は創立50周年、専門課程4学科10専攻・一般課程1学科5専攻の構成となっており、グラフィックデザインから建築デザインまで、ほぼデザインの分野すべての職能を教育する在学生約500人の専門学校です。空間をデザインする分野として、インテリアデザイン専攻・インテリアコーディネーション専攻を設置。通常授業では、色彩、設計製図の基礎・歴史・法規・構造・エレメントなどを学習、室内空間を設計・デザインする力を実習を通して高めています。またインテリア関連の様々な資格取得、コンペディション参加も力を入れており、全国規模の毎日DAS学生デザイン賞では、2009年・早川未紗がインテリア部門賞を受賞、2011年岡田純が入選、そのほか住まいのインテリアコーディネーションコンテストなどの様々なコンペでも数多く受賞し続けています。また通常講義の講師陣は、現場の第一線で活躍されている方々のご協力を受け、特別講義としては建築家の中山真琴先生、赤坂真一郎先生、山田良先生、照明デザイナーの中屋恵美先生、彫刻家の国松明日香先生などが、本校の教育を支援していただいています。今年、札幌市民ギャラリーで行われた卒業制作展では、2005点の作品を展示し世に問うことができました。若々しく澁刺としたエネルギーの発散、学生作品のクオリティの高さは、報道各社、そしてご来場の方々に高い評価を得ることができました。

住まいのインテリアコーディネーション コンテスト2011 学生プランニング部門入賞 須藤 なみさん入賞



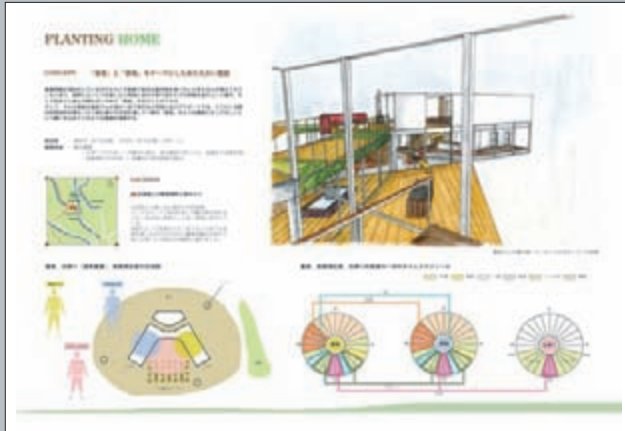
2009年 毎日DAS学生デザイン賞 インテリア部門賞 早川 未紗さん受賞



2011年 毎日DAS学生デザイン賞 入選 岡田 純さん入選

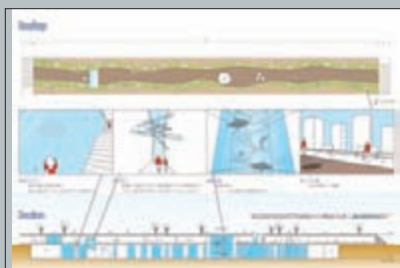
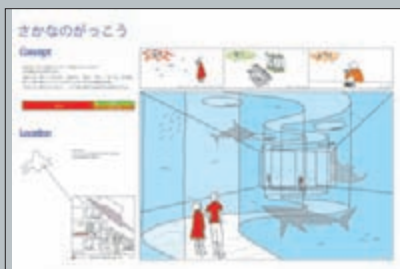


優秀賞 吉田 豊

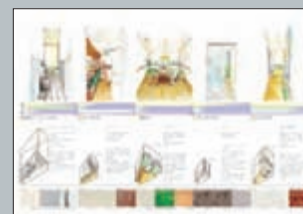


The 44th GRADUATION SHOW 2012

努力賞 高橋 嘉菜



学長賞 須藤 なみ



10・11期 会長 野村 光雄



当協会は1992年4月の第一回総会から数え、2011年度で20回目の総会を迎えました。これもひとえに会員皆様方の日頃の献身的な協力が無ければ達し得なかった事と心から感謝致します。これからもよろしく会の運営に協力をお願い致します。

また長い間、当協会を支えて頂いた顧問の山本信先生、事務局長の故一宮さん、山田さん有難うございました。ご尽力を感謝致します。

設立当初の事を考えると1991年6月の発起人会から参加しているのは今では私一人になり、会長という重要な役回りをさせて頂いているのもなにかの縁のような気がします。この機会に当時の事を振り返ってみるのも私の役目かもしれません。設立の前に準備委員会が招集されました。元当協会顧問の山本信先生の勧めでインテリアコーディネーター（IC）の試験を受け、続いてIPの資格もとって間もなく“北海道インテリアプランナー協会（仮称）準備委員会について”の発起人会に招集がかりました。当時、北海道教育施設研究所の魚住さんを座長

として大手ゼネコン、ハウスメーカー、工務店の設計担当者、建築内装業、大学、道立寒地住宅都市研究所の方達12人に加え、私は家具業界の代表として参加しました。総勢13名の準備委員会が立ち上がったのです。

インテリアプランナーの社会的地位の確立、普及浸透などを目的として、9月設立を目標に、慌ただしい中、会則や会の骨子を決め、途中、座長が交代したり、十勝のIP協会との調整等を解決し、初代会長の杉山さんを擁立し、吉本さん、仲井さん等の方たちの参加も得、正会員160名、準会員16名、賛助会員19社、の規模で北海道インテリアプランナー協会が設立、出発しました。そして、今20年経ったわけです。

途中10周年記念事業としてJIPA全国大会を北海道で開催しました。お手本も無く、でも北海道として全国の会員を暖かく迎えるにはどうすれば良いかとみんな一丸となって考え協力しました。毎週のように打ち合わせがあり、（飲み会もありましたね）頑張りました。その結果、全国の会員さんからの評判はすごく良く、やりすぎだよ？、とのお褒めの言葉も頂いています。

今年度（21年目）ですが、20周年記念事業として全国大会を開催します。前は涼しい快適な北海道を楽しんでもらいましたが、今回は雪祭りに合わせ冬の北海道を体験してもらえればと思います。

基調講演、懇親会、オプションツアーの企画等、全国の会員さんをお迎えするために、また会員皆様の力を合わせて、素敵な全国大会になるように頑張っていきたいと思います！

Hokkaido Interior Planner's Association ★ 20th



1・2・3期 会長 杉山 宗英



設立20周年。おめでとうございます。地域協会が、20年間活動を続けられた事は、会員の方々の熱意と努力の賜物だと思います。全国組織のデザイン系団体が、活動よりも組織の維持に汲々としている状況の中で、会員の減少という全国の協会と同様の課題に直面しながらも、常に協会活動、対外活動に努力を行い協会の活性に、正会員、準会員、賛助会員の方々が協力している事の証だと思えます。

全国大会に毎年参加させていますが、必ずそして毎回「北海道の会員の方々の仲の良さ、団結力の素晴らしさ」を全国の方から褒められます。「北海道の女性は素晴らしいのでそれで持っています」と答えるのですが、全国の方も納得し、付けたしのように「それは男性も上手なんですよ」と一応、褒めていただきます。

平成4年4月の全国に先駆けての発足総会が、各地域協会の発足のきっかけとなり、全国10協会、全国組織日本インテリアプランナー協会の設立へと繋がった事に誇りをもってよいと思います。各地域協会と日本インテリアプランナー協会の関係性をどう構築するかについては、設立当初、何度も協議した上で、本部・支部の関係ではなく、自立した地域協会の活動を尊重・中心とした緩やかな連携としての全国組織「日本インテリアプランナー協会協議会」として発足しました。その後、組織の安定・法人化等に伴い、協議会を外し「日本インテリアプランナー協会」とし一般社団法人化、全国組織として、対外的な交流・交渉を担い、地域協会の活動をフォローしています。理事は各地域協会から選出された地域協会の代表で構成されています。

協会は人と同じで一人で生きて行くことは出来ません、建築技術教育普及センター、他団体、北海道、札幌市、企業等の皆様、北海道インテリアプランナー協会の設立から今まで協会の活動に係わった全ての方々の協力には、改めて感謝を申し上げますと共に、インテリアプランナーを目指す若い方々にも魅力ある協会として、会員の皆様と協力して協会活動を進め、30周年を目指されることをご期待申し上げます。

4・5期 会長 中井 伸二



20年と言えば今までの人生の数分の一。そんな長い日々を北海道インテリアプランナー協会（HIPA）会員として過ごしてきたことになる。

HIPA設立準備時、山本信先生から「中井君も何か手伝って」とお話を頂いた。

当時はまだ心身共に健康で生意気盛り。建築と言う狭い業界にいただけではイケナイと考え、協会設立準備のお手伝いをした。まだIP資格制度ができたばかりの頃で、IP協会設立にむけての動きは全国で一番早かった。熱のある議論が続き、IPの社会的認知と啓蒙の為に協会のあり方について話し合った。IPになる為の手段や活動は？事業内容は？委員会の役割は？若かったせいもあるが皆、真剣で一生懸命だった。意見交換をしながら細目を吟味し、一つ一つ具体化し行く根気のいる作業だったが、私には有意義な時間を感じられた。

決して過去を懐かしむ訳ではない。「いまさら何を」と笑われるかもしれないが、私は敢えて、協会設立時に抱いた理想や熱意を思い出し、今一度原点に立ち戻る事も悪くはないと考えている。この20年間で何人もの方々が協会から袂を分かつ事になったのだが、むしろそれは自由闊達なHIPAらしい結果だった。現状に安穩とするのはただの停滞に過ぎないし、HIPAは気の合った仲間たちが集う仲良しサロンではない。今こそ、協会の運営や事業内容を見直す議論を始めるべきでは。「大人」になったHIPAのために、勇気ある提言と大胆な切り替えが必要なのではと思っている。

「20才（ハタチ）」の意味がそこにあると思う。人間に深く関わり、人が直に触れるものを創るプロ集団としての誇りを持ち、個性的で独自の協会の姿を模索・標榜し、外部への発信より内（会員）に向かったの誠実な対応や、資格本来の意味を問い直す、謙虚で真摯な姿勢が求められる。

Hokkaido Interior Planner's Association

6・7期 会長 吉本 眞知子



20周年目を迎えたHIPAの活動を振り返りますと、多くのエピソードが思い出されます。中でも2003年夏、JIPA北海道大会の開催が強く印象に残っております。

テーマは『風の大陸』。北海道から全国にIPの活動を発信するためにHIPA会員の力が存分に発揮されました。

バックヤードでは「元気なオトナの女性たち」の結束力が光り、バイタリティー溢れる女性会員が多いHIPAの特徴的な光景を見ることができました。

更に、思慮深い男性会員の、「手間を惜しまず楽しく、面白くしよう」、「今までに無いものを」との熱い思いも大きく、HIPAの活動を全国の方々に知っていただく貴重な機会を得て、北海道から全国に発信するという目的を果たすことができたと思います。

昨今、IPとしては「室内意匠」にとどまらず、安心安全を提供するのはもちろんのこと、地域性を考慮した総合的な提案も求められていると痛感しております。デザイン力、技術力を磨く事に加え、クライアントの要望と周辺の地域性をどう活かすのか、「バランス力」を備えることも益々大切と感じます。

JR九州の新幹線車両や駅舎のデザイン等を多数手掛けられ、「九州の旅を変えた」と言われているデザイナー、水戸岡鋭治氏が、JIPA九州大会で講演をされたお話が今でも鮮明に思い出されます。

「デザイナーやプランナーは、デザインと共にコストを抑え、知恵を絞り出すのが役割です。デザインは公共のため、我々は、公僕であり、サービス業なのです。」

北海道でデザイン業に携わる私達が地域の為にできることは何なのか、更には全国に向けて発信できることは？またその方法は？日々意識したいです。

HIPAも節目の年を迎えますが、協会を維持継続する事は、体力も時間も必要です。私達も微力ながら、これまでの経験をもとにバックアップの手を緩めず、北海道らしさを大事にして、次世代会員の応援を続けたいと切望しております。

8・9期 会長 河村 利枝子



北海道インテリアプランナー協会も今年で設立20年の成人を迎えます。初代会長杉山さんを始め設立当初から会の運営に携わられた会員・賛助会員の皆さまに改めて敬意を表したいと思います。私は第4代会長を務めた4年間で協会内外において多くの出会いがあり交流を深めることができた事が今、大きな財産となっております。

この20年は時代の大きな変わり目でありました。高度成長はもはや過去のものとなり日本は景気低迷・政治混迷の時代がつづいています。私たちプランナーの仕事は経済情勢や流行に大きく左右されて業界も縮小傾向にありますが、常にあたらしい技術やデザインが求められてこれによしという事はありません。

とりわけ昨年の3・11東日本大震災は私たちにさまざまな問題を提起するものでした。

今までの価値観を覆し、私たちが求める豊かな暮らし・住まい方・生き方はなんであるか、プランナーとして社会のために提案できることは何か問われました。長い復興に際して今後、IP協会の活動が地域に何か貢献することで、すこしでも住みよい社会に変えることにつながって行けたらと思います。

HIPA 遠藤 千歌さん

「縫うことなら何でも」

布という素材でいろんな表現をしたいと、身の回りの雑貨から、ファッション、インテリアまでその可能性を広げる遠藤千歌さん。HIPAの新会員さんです。

独立されたのはちょうど10年前。インターネットを通して、布に関する仕事を宣伝したところ、いろんな企業から様々な仕事の依頼があり独立を決意。現在に至るそうです。

千歌さんの主な仕事のひとつに、旅館、ホテルの「布に関する仕事」があります。例えば、宿泊客が旅館内で部屋から大浴場へ移動する際のバッグ。旅館側も手頃なものを探すのに苦労するそうです。そこで千歌さんがオリジナルのバッグをデザイン。完成品はお客様に大変喜ばれているそうです。旅館



の暖簾を制作する際にも手染めで千歌さんオリジナリティを發揮。また、ユニフォームのデザインも主要なお仕事のひとつです。バレエの衣装に加えて最近ではトマムリゾートのスタッフのユニフォームを制作されました。トマムは冬期間アイスビレッジなどを楽しめますが、そのアイスビレッジにふさわしいチャーミングなユニフォームです。(写真)

「布に関するご相談なら、難しい依頼でも何とか実現させます！」とのこと。今後の一層の活躍が楽しみな遠藤千歌さんです。



HIPA ライフクリエイトくまがい

アメリカ国内でも高級住宅と呼ばれています。輸入住宅「Lindal Cedar Homes」の北海道地区ディーラーです。ウエスタンレッドシーダーを使用した住宅・別荘・ペンション等を建設しています。お客様は、以前は道内の日本人の方々がほとんどでしたが、最近はオーギーが多いそうですよ。建設地もニセコ、ルスツなどの別荘地が中心だそうです。

最近の「ライフクリエイトくまがい」さんは、従来の別荘型のデザインに加えて、シティ型のデザインを目指しているそうです。都市部でもウエスタンレッドシーダーを使用した住宅が実現できないかと、日々挑戦されています。

まずは写真のTURKEL DESIGN、(建設地はルスツですが)札幌近郊でも実現できそうなデザインですね。



また、Urban Designと称する平屋根型のデザインは、どことなく巨匠F.L.Wrightのプレーリースタイルを連想させる素敵な建物です。

また、ホームオーナーの皆様へ最後に鍵をお渡しする「ターンキー」だけではなく、セルフビルド、ハーフビルドにも対応出来るよう「ハウスパッケージ」での資材販売にも積極的に取り組んでいるとのこと(基本的にUSS契約ですので円高メリットを最大限に活かしていただくために!)。「お気に入りの資材をホームオーナーが購入して、地域でお世話になっている工務店さんに建ててもらう。」そんなことも実現可能なのです。



HIPA 及能株式会社

思い出して下さい。

子供の頃、座布団を二つ折りにして枕代わりに、蝉達の鳴く声を手守唄に、いつの間にか夕暮れになり、母の優しく呼ぶ声で夢から覚めた時を。

畳は家族の一家団欒の間になり、客間になり、子供の遊ぶ部屋になり、勉強部屋になり、寝室になりました。私達の生活の中にいつも畳は身近にありました。そして畳は家そのものでした。

畳のい草の香り、素足に感じる心地良さ、目で感じる柔らかさは優しく私達を包み込み、少しだけ日本を感じる時でした。



現代のスピードを求められる時代に逆行することと思いますが、もう少しゆっくりと穏やかに時が流れる中、子供達には和室の風情を感じ、畳の情緒の中で大きく、立派に育てて欲しいものです。

及能(きゅうの)株式会社は畳材料(表(おもて)、床(とこ)、縁(へり)など)を畳店に卸しています。また、畳の製造販売も行っております。営業エリアは一部地域を除き全道です。表の種類はい草の他に和紙、ポリプロピレンの材質の畳があります。最近多いのは半畳縁無畳です。琉球畳風ということで和室、洋室に使われて、年々増加しています。

畳のごことでご質問がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。



SUNTORY  midorie COMPETITION
SUNTORY MIDORIE LIMITED

最優秀賞 安田 美香



昨年10月に開催されました「SAPPORO DESIGN WEEK 2011」へ北海道インテリアプランナー協会様及び物林様ご協力のもと、サントリーグループで展開しておりますmidorieと飲料自動販売機を融合したコーナーを製作展示させていただきました。

今回のデザイン選定にあたりましては物林様と共同でコンペ方式を採用させて頂きました。出品頂きました全てが素晴らしいデザインの為、選定にはかなり苦慮致しましたが、最優秀賞作品を無事に展示することができました。

同協会様をはじめ、関係各社様には多大なるご協力を頂き御礼を申し上げます。

midorieと飲料自動販売機を融合した作品は事例がない初の試みとなりましたが、開催期間中には多数のお客様、法人企業の幹部様等お見えになり非常に関心を示されており、今後の緑化、自販機ビジネスの可能性を見出せた良い機会を頂戴し、誠に有り難うございました。

今後ともサントリーが独自に開発した土に代わる新素材「パフカル」を配した「花のかべ」の認知度向上、サントリー飲料自動販売機の普及拡大を図る為、会員各社様のご協力をお願い申し上げます。

サントリーフーズ (株)
北海道支社
担当：自販機課 堀木誠
連絡先：090-8053-1357

優秀賞 杉山 宗英



奨励賞 河村利枝子・河村 壇



倉井 洋子



田路 仁



サントリー「ミドリエ」とミニミニワークショップ



環境(自然)と未来(子供)にインテリアデザインを掛け合わせたら何が生まれるだろう。デザインを身近に感じられるインテリアプランナー協会からの提案です。

○会場/札幌駅前通地下歩行空間 北1東イベントスペース EAST
○日時/10月19日(水)～10月23日(日) 10:00～19:00(最終日17:00)





EXHIBITION 1

サントリー「ミドリエ」デザインコンペ入賞作品展示
土を扱わない軽くてタリシな緑の空間サントリー「ミドリエ」。クリエイティブ&フレキシブルが特徴です。今回は、「ミドリエを使用した自動販売機」のデザインコンペでインテリアプランナー協会の会員がデザインした入賞作品を展示します。

WORK SHOP

ミニミニワークショップ「インテリアデザイナーの体験」
未来のインテリアデザイナー発見?
小学生にお部屋のコーディネートをしてもらい、デザイナーの体験をしていただきます。

○日時/10月22日(土)・23日(日)
①11:00～13:30 ②14:00～17:00(両日共)
各定員4名(先着順)※対象:小学生以上

○申込み/同自ゼノ北海道インテリアプランナー協会 事務局
TEL・FAX 011-765-3309 ma@hipa.hk

EXHIBITION 2

北海道インテリアプランナー協会 会員作品展示
北海道各地で活躍するインテリアプランナー協会会員の作品を展示します。身近なところにデザインの世界を感じてください。



4月	インテリアセミナー
5月	19日～21日 賛助会員様 展示会・セミナー 20日 総会 21日 情報委員会健康増進プロジェクト (5月～11月 毎月1回の予定) 26日・27日 賛助会員様 展示会・セミナー
6月	8日 賛助会員様 展示会・セミナー 14日 他団体交流 (新建築家技術集団北海道支部) 「東日本大震災の現地報告会」 25日 「旭川の歴史的建築物とデザインイベントを巡る旅」 30日 他団体交流 (北海道建築士会) 「建築士祭り」
7月	1日 他団体交流 新建北海道支部 三沢浩建築講演会 23日 浦邸 BBQ party 29日 インテリアプランナー試験案内配布開始
8月	1日～9月22日 インテリアプランナー試験受験申込受付
9月	3日～25日 サントリー「ミドリエ」 デザインコンペ (物林株式会社) 5日 賛助会員様 セミナー・イベント
10月	1日・2日 こどものまちミニサッポロ2011 「インテリアデザインのお仕事」 15日 他団体交流 (建築学会) 歴史的建造物の見学 「建築散歩～小樽・積丹編」 19日～23日 SAPPORO DESIGN WEEK 2011 メインテーマ「Love」 当協会のタイトルは「サントリーミドリエ&ミニミニワークショップ」 28日 他団体交流 (トステム財団) 「大樹町 メム サミット」 (東日本大震災復興支援イベント)
11月	6日 インテリアプランナー試験直前講習会 20日 インテリアプランナー試験日 26日・27日 JIPA全国大会in宮島
12月	27日 HIPA 忘年会
1月	1日～31日 他団体交流 (JIPA) 「第15回木材活用コンクール」 28日 HIPA 新年会
2月	4日 インテリアプランニング アワード 優秀賞受賞作品見学セミナー 9日・10日 賛助会員様 展示会 18日・19日 情報委員会健康増進プロジェクト 「ニセコ東急スキー合宿」
3月	2日・3日 「ホテル&スパリゾート ラビスタ函館ベイ」 見学会

北海道インテリアプランナー協会 会長 野村 光雄



20年目の節目を迎えた当協会ですが、いつものように各委員会の活躍により、活発に行事が行われました。担当になられた各委員の会員方々には、いつもながらの献身的な協力に大変感謝致します。本当に有難うございます。

今年度は定番になりました、子どもたちと『インテリアデザインのお仕事』と一緒に体験する札幌市主催のミニさっぽろへの参加。札幌駅前通地下歩行空間で行われた札幌デザインウィークには沢山のみなさんに体験、参加していただき、インテリアプランナーの普及、浸透に大変効果があったと思います。遠い将来ではありませんが、当協会への入会を楽しみにいたしましょう。

また、他団体の悩みと一緒になのですが、当協会も例外ではなく、会員の高齢化、会員の減少という問題があります。

時代の流れと言ってしまうえば簡単ですが、このままでは会の運営にも支障をきたすのは目に見えています。

沢山の会員が入会してもらえるような魅力ある会の運営を心がけ、アピールできるような企画・行事を打ち出していき事は大変重要な事なのですが、そのためには協力して頂く会員の負担を減らす事も考え、会の組織を見直す事も必要かなと考えます。

今年度は全国大会を札幌で開催します。準備も大変だと思いますが会員皆さんの協力なくしてはこの大仕事を乗り越えることはできません。皆と一緒に頑張りましょう。

北海道インテリアプランナー協会 事務局長 佐藤 利明

東日本大震災から一年を過ぎた今日ですが、まだまだ復興の兆しが現れない中、被災地で頑張っている人々を思うと忍耐強さを感じます。札幌にも家族と別れ、避難されている方が多く居ります。いつかふるさとに戻ることを目標に日々頑張っています。私たちひとり人が応援できる限界もありますが陰ながら力を出

したいと思います。

さて今年度はJIPA全国大会が札幌で開催されます。2013年2月9日で決定しましたが『さっぽろ雪祭り』期間中です。HIPAがホストですのでみなさんの絶大なご協力を頂き成功させたいと実行委員会（杉山委員長）が頑張っています。いつも感じますがHIPAの底力の強さが顕著です。どうか皆様のお力で、復興中の日本に活力を与えてください。事務局は縁の下の役割を微力ながらしたいと考えています。

2011年度活動に想う

総務委員会

委員長 常田 政広

総務委員会は、組織強化と円滑な運営のための活動を目的としています。

総務委員会の主な事業・業務として、定時総会・新年会の開催、

入会のすすめと退会に関する対応、会費徴収の円滑化が重要な業務です。

入会は会員の皆様から、入会リーフレット等を活用し、あらゆる機会を通じて入会を勧めて頂いたお陰で、多数の入会者を得ることができました。しかし、準会員は増えていますが、正会員はあまり増えていません。また、経費節減等の理由で賛助会員の退会も増えてきています。当協会も創立20周年を迎え、来年2月には全国大会（北海道）開催を予定しています。10周年同様の規模とはいかないまでも、多くの会員の結束と協力が必要とされます。今まで以上の入会を図ると共に、退会者が出ないように、会員に声掛けして一人でも多く、色んな行事に参加して頂けるように、今後とも会員の皆様のご協力をお願いいたします。

普及委員会

委員長 佐々木 義則

普及委員会の主たる活動のひとつである“インテリアプランナー試験直前講習会”を開催しました。講習の内容や回数、受験対策資料の充実等の検討項目があり、主催

者側として全てについて満足できる内容を提供したいという思いがあるものの、限られた条件の中、それを実現できたとは言えないかもしれません。

しかしながら講習会後のアンケート結果を見ると全ての受講者から評価を頂くことができていました。これは短い準備期間にもかかわらず協力して下さったHIPA会員及び普及委員の協力無しにはありえません。この協会のメンバーの結束力を確認できる良い機会となりました。この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

また、子供たちにインテリアの職業体験をしてもらう“長い目を見た”インテリアの普及活動にも関わることができました。このことから私たちの協会が存在する意義の再認識ができたことは貴重な体験だったと思います。

私の普及委員長としての任期は終えることとなりますが、今後のより良い活動を願って後任の委員長にバトンタッチを行わせて頂きます。

交流・事業委員会

委員長 白鳥 孝

交流・事業委員会は、会員相互の交流と他団体との親睦交流を目的に活動しています。

今年度は、6月に「旭川の歴史的建築物とデザインイベントを巡る旅」を実施しました。

昭和8年建築の旧岡田邸をメインに他の歴史的建築物と家具デザイン国際コンペ及び新旭川駅舎を見学しました。

また、旭川の会員とも交流することができ、楽しい見学会となりました。

10月の札幌デザインウィークでは、札幌駅前通地下歩行空間にてサントリー「ミドリエ」デザインコンペ最優秀賞の作品を実物製作展示・入賞作品パネル展示及び会員作品のパネルを展示しました。

また、ミニミニワークショップとして、「インテリアデザイナー体験教室」を実施、小学生にインテリアデザイナーの体験をしていただきました。

2月には、「ホテル&スパリゾートラビスタ函館ベイ」の見学会を実施しました。

「ラビスタ函館ベイ」は、「第1回インテリアプランニング アワード」優秀賞を受賞した作品で北海道最古のレンガ建築であった旧開拓使常備倉を、一部保存し「最も函館らしいホテル」として再生させたホテルです。

函館の会員とも交流でき、大変有意義な見学会でした。

来年度も、皆様に楽しんでいただける企画をしていきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

情報委員会

委員長 田路 仁

情報委員会では「IP NEWSの発刊」「HPの運営」を担当しております。

IPNEWSにつきましても、昨年同様「より多くの方に興味を持っ

ていただける内容」を第一義としております。20周年を迎える事もあり、改めて「デザインの力」をタイトルとしました。情報委員の方々には、昨年以上に取材等にご協力いただきました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。おかげで昨年以上の内容となったと思っております。

昨年、まったく手をつけることができなかったHPにつきましても、何とかToppageの変更ができました。HPはインターネットでのHIPAの玄関と考えております。

協会内部の連絡用ではなくHPを訪れた方にとってHIPAと言う団体が分かりやすいHP、また各会員の方々にとって使い勝手が良い、また各会員の仕事にも役立つHPも視野に入れ検討してゆきたいと考えております。

皆さまのご意見、ご要望お聞かせいただけましたら幸いです。今後とも宜しくお願いたします。

◆協会案内

1987年、建設省の告示に基づきインテリアプランナーの資格制度が発足し、その後インテリアプランナーの重要性が認識されるとともに、日本全国で資格取得者が増加してきました。

北海道インテリアプランナー協会（略称：HIPA）は、全国初のインテリアプランナーの資格団体として1991年に設立されました。その後、全国各地でインテリアプランナーの協会が発足すると、1998年には全国の協会を統合した日本インテリアプランナー協会協議会が発足しました。その後2004年12月に法人日本インテリアプランナー協会が設立されました。

協会では、インテリアプランナーの知識向上に始まり、一般的なインテリアに対する知識の普及や啓発を通して社会に貢献することを目標として、研鑽の日々を送っています。

	会 費	
	入会金	年 会 費
正 会 員	10,000円	12,000円
準 会 員		8,000円
賛助会員		20,000円を一口とする
学生会員		5,000円

◆平成24年度インテリアプランナー試験日程

試験案内配布開始：5月7日（月）

設計製図試験の設計課題公表：7月31日（火）

受験申し込み書頒布：7月31日（火）～9月21日（金）

受験申し込み書受付：8月1日（水）～9月21日（金）

試験日：11月18日（日）（学科試験及び設計製図試験）

合格発表：平成25年2月21日（木）頃

詳細については、(財)建築技術教育普及センターが5月7日（月）より配布する「平成24年度インテリアプランナー試験案内」をご覧ください。なお、同試験案内は当ホームページにも掲載します。

◆設計製図試験・直前講習会のご案内

北海道インテリアプランナー協会では、インテリアプランナー試験・直前講習会を実施しております。昨年度も、この講習会からの合格者が出ています。

【講習会概要】

名称：インテリアプランナー試験（設計製図）講習会

日 時：平成24年11月4日（日）

内 容：設計課題に沿って講師が指導

- ・受験の心得（時間配分、試験会場の雰囲気 ほか）
- ・平面図兼家具配置図・透視図・断面図・その他

【今年度の講習会のお問い合わせ先】

北海道インテリアプランナー協会 事務局

TEL・FAX：011-765-3309

URL：http://www.jaeic.or.jp/ip-nittei.htm E-MAIL：mail@hipa.biz

個人事業主の方々に朗報です

北海道インテリアプランナー協会 会員向けの保険組合『文芸美術国民健康保険組合』

日本インテリアプランナー協会として表題の組合に加盟しました。

北海道インテリアプランナー協会の個人事業主の方はこの保険組合に加盟できます。

国民健康保険加入のご案内

医療保険料	22年度	月額	13,500円
家 族	//	月額	6,100円
介護保険料	//	月額	2,400円（平成22年3月現在）

【保険加入資格】

- 日本インテリアプランナー協会が各地域協会（北海道インテリアプランナー協会）の会員であることを承認する。
 - 各地域協会（HIPA）の会員であること。協会会長の承認印が必要。
 - 各地域協会会費の滞納がないこと。
 - 準会員の方は正会員と同額の年会費を納めることで加入資格があります。（8,000円→12,000円）
 - 確定申告書B控の職業欄にはデザイン、インテリアと記すことが条件。
（建築設計業などは認められません、デザイナーであることが条件）
- ※ただし、(株)・(有)等の社員、経営者は加入できません。

【加入手続き】

- 保険組合との手続き窓口は関西インテリアプランナー協会が行う。
- 申し込みは各地域協会の事務局へ申し込み依頼をする。
後日申し込み書などを事務局から郵送する。
- 申し込み時期は随時。

【入会金と事務費】

- 入会金は17,500円（税込み）とする。内7,000円は事故に備えて供託金とし、退会時にはその時点で総額金を組合員総数で割った金額を返却する。
- 事務費は年間2,500円（税込み）とする。一年毎に関西インテリアプランナー協会の指定銀行に振込。

JIPA Japan Federation of Interior Planner's Association

一般社団法人 日本インテリアプランナー協会

北海道インテリアプランナー協会

〒001-0923 札幌市北区新川3条12-9-11
TEL/FAX：011-765-3309
http://www.hipa.biz/ E-mail:mail@hipa.biz

岩手県インテリアプランナー協会

〒024-0032 北上市川岸1-8-5
（有設計集団 次元分室 菅原建築設計室）
TEL/FAX：0197-65-2544
E-mail:s-sekkei@mx5.et.tiki.ne.jp

山形インテリアプランナー協会

〒990-0832 山形市城西町5-14-31
（有笹原デザイン設計室）
TEL/FAX：023-645-3533
E-mail:s-design-risuke@msj.biglobe.ne.jp

東京インテリアプランナー協会

〒141-0022 東京都品川区東五反田5-25-19
東京デザインセンター3F
TEL：03-3446-8860 FAX：03-3446-1417
http://www.jipat.gr.jp E-mail:office@jipat.gr.jp

静岡県インテリアプランナー協会

〒420-0064 静岡市葵区本通10-30 黒田設計棟
TEL/FAX：054-255-8027
http://ipas2006.hp.infoseek.co.jp/
E-mail:dzh00273@nifty.com

中部インテリアプランナー協会

〒460-0011 名古屋市中区大須1-2-14 櫻屋ビル1F
TEL/FAX：052-209-9600
http://www.chubu-ip.com
E-mail:cip@chubu-ip.com

北陸インテリアプランナー協会

〒920-0861 金沢市三社町11-16
金沢科学技術専門学校
TEL/FAX：076-222-1023
E-mail:yamakoshi@kist.ac.jp

一般社団法人 関西インテリアプランナー協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-13
ヤマトビル本館9F
TEL：06-6266-5735 FAX：06-6266-5745
http://www.jipa.net/kipa E-mail:kipa@jipa.net

中国インテリアプランナー協会

〒731-5135 広島市佐伯区海老園1-13-7
（有エルイーオー設計室）
TEL：082-923-2132 FAX：082-922-0018
http://cipa21.com/ E-mail:cipa@cipa21.com

西日本インテリアプランナー協会

〒810-0041 福岡市中央区大名1-9-45-403
アーキデザイン校
TEL：092-751-3303 FAX：092-751-8088
http://www.9.ocn.jp/nipa/ E-mail:nipa@tune.ocn.ne.jp

新会員紹介

正会員



手塚 哲也

物林株式会社

〒060-0003
札幌市中央区北3条西2丁目10-2
札幌HSビル3F
TEL : 011-271-1685
FAX : 011-271-3030
E-Mail : tezuka@butsurin.jp

準会員

遠藤 千歌

〒003-0022
札幌市白石区南郷通15丁目南1-43-2
TEL : 011-863-9180 携帯 : 090-2871-1726
E-Mail : info@chika-e.com

久田 香

Post Works

〒005-0832 札幌市南区北ノ沢1750-3
シティハイム101号
携帯 : 090-9086-8921
E-Mail : post.works66@gmail.com

須藤 由加

ブレッセ

〒064-0806 札幌市中央区南6条西23丁目5-3
TEL : 011-299-7550 FAX : 011-299-7550
E-Mail : info@momentsdepreesse.com

長田 雅浩

CADデザイン企画

〒062-0932 札幌市豊平区平岸2条9丁目5-1-101
TEL : 011-832-9207 FAX : 011-832-9207
E-Mail : a-nd2@yahoo.co.jp

藤江 雄太

〒064-0804 札幌市中央区南4条西16丁目2番1号
ペルドウエーブス医大401号
携帯 : 090-5223-3556
E-Mail : kingyoyuta@yahoo.co.jp

新賛助会員

株式会社キッチンハウス札幌

〒060-0031 札幌市中央区北1条東2丁目5番地3
TEL : 011-200-2737 FAX : 011-200-2747 URL : <http://www.kh-sapporo.jp>

賛助会員

財団法人 建築技術教育普及センター北海道支部
〒060-0042
札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル6階
TEL : 011-221-3150

アイカ工業株式会社 札幌支店
〒003-0006
札幌市白石区東札幌6条5丁目1-4
TEL : 011-811-9201

株式会社あさひ製作所
〒062-0911
札幌市豊平区旭町5丁目2-7
TEL : 011-811-6028

有限会社小笠原工芸社
〒062-0039
札幌市豊平区西岡538-8134
TEL : 011-582-8120

株式会社川島織物セルコン 札幌営業部
〒060-0051
札幌市中央区南1条東3丁目10-1-1
日伊文化会館新館3F
TEL : 011-207-1080

株式会社カンディハウス札幌
〒064-0946
札幌市中央区双子山4丁目1-10
TEL : 011-511-0303

クリナップ株式会社 札幌支店
〒003-0023
札幌市白石区南郷通11丁目北1-30
TEL : 011-864-8001

株式会社Hand Made
〒004-0867
札幌市清田区北野7条4丁目11-20
ホワイトヴィラ74 1階
TEL : 011-888-1122

株式会社福住
〒065-0012
札幌市東区北12条東1丁目4-23
TEL : 011-753-4555

北海道芸術デザイン専門学校
〒001-0027
札幌市北区北27条西8丁目
TEL : 011-717-6949

東リ株式会社 札幌営業所
〒062-0911
札幌市豊平区旭町3丁目1-7
TEL : 011-833-1730

物林株式会社 北海道支店
〒060-0003
札幌市中央区北3条西2丁目10-2
札幌HSビル
TEL : 011-271-1188

リリカラ株式会社 札幌支店
〒063-0832
札幌市西区発寒12条12丁目2-20
TEL : 011-666-2125

小林商事株式会社 札幌開発部
〒065-0013
札幌市東区北13条東1丁目1-10
TEL : 011-862-5740

株式会社札幌ファニチャー
〒061-1270
北広島市大曲279-70
TEL : 011-377-2177

株式会社サンゲツ 札幌店
〒003-0011
札幌市白石区中央1条2丁目1-37
TEL : 011-832-3111

シンコール株式会社 北海道本社
〒060-0051
札幌市中央区南1条東6丁目1-1
TEL : 011-209-0123

大光電機株式会社 札幌支店
〒064-0804
札幌市中央区南4条西13丁目2-2
TEL : 011-561-8067

ケント・ハウス株式会社
〒060-0809
札幌市北区北9条西4丁目18番地1
TEL : 011-746-5545

トソー株式会社 札幌支店
〒003-0012
札幌市白石区中央2条3丁目3-10
TEL : 011-841-3731

ニッポー・コーポレーション株式会社
〒003-0023
札幌市白石区南郷通14丁目2-23
TEL : 011-846-7430

パラマウントベッド株式会社
〒060-0004
札幌市中央区北4条西5丁目1-4 三井生命札幌共同ビル1階
TEL : 011-219-8800

株式会社タジマ 札幌営業所
〒060-0001
札幌市中央区北1条西13丁目4 タケダ札幌ビル1階
TEL : 011-231-8261

札幌斉藤木材株式会社
〒060-0041
札幌市中央区大通り東2丁目15番地 フジミツビル4階
TEL : 011-231-2082

株式会社ダンク
〒061-1274
北広島市大曲工業団地4丁目6-6
TEL : 011-370-5301

有限会社ライフクリエイティブ まがひ 札幌事務所
〒060-0032
札幌市中央区北2条東3丁目2-札幌セントラルビル4階
TEL : 011-676-8121

ピーエス工業株式会社
〒061-1112
北広島市共栄41-3
TEL : 011-373-2221

株式会社内田洋行 北海道支店
〒060-0041
札幌市中央区大通東3-1
TEL : 011-214-8511

白馬堂印刷株式会社
〒064-0823
札幌市中央区北3条西25丁目
TEL : 011-621-1471



ニッポンノチカラ

デザインノチカラ

デザインノチカラ